【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	有田町立有田中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上では、「学び合う活動」「書く活動」「ふりかえり」に重点を置いて取り組んだ。その結果、学力状況調査の昨年との比較で、無回答率が減少し、正答率も向上した。授業公開や授業研究会を充実させ、二極分化している学力を向上させる指導法の研究を継続して行う。 ・「不登校対策」として、SC・SSWと連携しながら不登校対策に取り組んだ。また、定期的な情報交換会を実施し、気になる生徒の状況や対応について共通理解を図りながら取り組むことができたが、不登校者数の減少とはならなかった。
2 学校教育目標	郷土を愛し、未来を切り開く健やかな体と豊かな人間性・創造性を持つ生徒の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びあう活動」「書く活動」「ふりかえり」の充実を通して、「わかる授業」を実践し、自分の考えを筋道を立てて豊かに表現できる生徒を育成する。 ・「不登校対策」の体制を継続・充実させることで、不登校生徒の削減・増加の抑制を目指す。

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○学習状況調査等で記述式の正答率を昨年より上げる。	・生徒が主体的に学ぶよう基礎基本を定着させる活動を仕組む。 ・根拠を明確にして自分の考えを表現する活動を仕組む。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標をおおむね達成した教師81.8% ・県学習状況調査で記述式の正答率を県平均と比較したところ、1年生は理科以外の4教科、2年生は数学と英語において上回った。	B	・先生方が、学力向上に向け意欲的に取り組まれている。更に工夫をしながら学力向上を目指してほしい。
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「わかる授業」を目指し、全教科で授業公開、授業研究に取り組む。 ○「話し合う活動」を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童(生徒)70%以上	・「わかる授業」を目指して授業を公開し、授業改善に取り組む。 ・「めあてと振り返り」「学びあう活動」「書く活動」の充実を図るための校内研修の実施と授業実践。	A	・授業公開・授業研究会は、計画通りに実施できた。 ・アンケートの結果、「めあてや振り返り」「話し合う活動」「書く活動」を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできていると回答した生徒91.8%	A	・授業研究会を計画的に実施しながら、授業改善に取り組んでもらっている。生徒のやる気を引き出す指導を期待している。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒の割合80%以上。	・年間35時間の道徳科の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養う。	A	・「互いに認め合い、相手を思いやる心を育てることができた」と肯定的な回答をした生徒の割合が95.3%であった。 ・「つなぐ」を発行し、家庭との連携を図った。	A	・ITでの授業など、工夫された授業が行われている。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教師の割合85%以上	・毎月の生徒用アンケートの実施と、毎週の教育相談部会や毎学期の生徒指導連絡協議会等を通して、生徒の動きに敏感にアンテナを張れる環境づくりを促進する。	B	・学校生活アンケートを毎月実施でき、早期発見・早期対応につなげた。 ・いじめ防止について、組織的対応ができていると肯定的に回答した教師90% ・学校はいじめをなくし、人間関係を良くする取り組みを行っているとの肯定的に回答した生徒82.8%、保護者76.1%	B	・いじめについては、早期に対応していただいている。SNS等への書き込み等、以前と質が変わっているので、今後もしっかりと対応してもらいたい。
	◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の実践	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒の割合80%以上。	・キャリア・パスポートの作成を通して、各種体験活動における振り返りの充実を図る。 ・進路を見通すことができる、中学校3年間を見据えた進路学習を進める。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒の割合は82%であった。 ・進路学習や体験活動を通して進路について考える指導を行った。 ・キャリアパスポートの効果的な活用ができなかったため、活用方法の工夫改善が必要である。	B	・全学年での陶芸教室やごどうふ作りなどの体験活動の取り組み、将来へ向けての進路指導のさらなる充実をお願いしたい
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上。 ○朝食をとって登校する生徒90%以上。	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施。 ・栄養教諭と連携し、発達段階に合った食に関する授業の実施。	B	・食についての授業や食育だよりなどを通して、健康的な食生活を送るよう考えることができたとの肯定的に回答した生徒85.7% ・栄養教諭による食育の授業を1年生全クラス、中体連前の食事に関する授業を全校生徒に実施した。	A	・給食の献立を、給食だよりやSNSで発信していることは素晴らしい。給食の参観なども実施してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○長期休業等を利用した年間10日以上の子休取得70%以上	・超過勤務時間を正確に記録し、計画的な勤務を行う。 ・定時退勤日の確実な実施 ・年休取得推進日の設定。 ・水曜日、土日どちらかの部活動休養日の確実な実施。	A	・超過勤務時間や定時退勤日を意識した取り組みを心掛けたとの肯定的に回答した教師70% ・職員の年休取得日数平均 12.9日 ・週2日の部活動休養日を取っているとの肯定的な回答をした生徒91.3%	A	・働き方改革の意識が高まってきていると思う。休めるときにはしっかりと休んでもらいたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
○不登校対策	○生徒が安心して通える学校環境づくり	○年間欠席日数30日以上の子休の割合前年比-10%を目指す。	・毎月の「有田っ子アンケート」の実施 ・年2回の教育相談週間実施。 ・週1回の教育相談部会を行い、状況や対応について共通理解を図る。	B	・毎月「有田っ子アンケート」の実施、週一回の教育相談部会を継続して行うことができた。 ・年間30日以上の子休者数減少(今年度16名) ・不登校傾向生徒が相談室利用を通して教室復帰に向けて段階的に進むことができている。	B	・家庭訪問など大変だと思うが、家庭とも連携を取りながら継続した対応をお願いします。
○地域に開かれた学校づくり	○教職員、地域、保護者と学校の教育目標や方針を共有し、教育活動の充実を図る。	○学校の教育活動への参画が、学校の活性化につながったと思う割合が80%を上回るようにする。	・年3回の学校運営協議会を開き、地域のニーズや声を学校教育に反映させる。	B	・学校運営協議会を3回実施。 ・地域や保護者の協力が、学校活性化につながっていると肯定的な回答をした保護者72.6%	B	・今年度から始まった学校運営協議会を更に進めたい。協力をしていきたい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育							
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルス感染症の影響もあったが、計画していた行事等は生徒や保護者、地域の方々の協力を得ながら確実に実施することができた。 ・学力向上では、「学びあう活動」「書く活動」「ふりかえり」の充実を通して、「わかる授業」の実践に取り組んだ。学習状況調査において、記述式の正答率は県平均を上回ることができたが、各教科において一部の領域で平均を下回っているところもあり、その対応についても継続して取り組んでいく必要がある。 ・不登校対策においては、週1回の教育相談部会を実施し情報共有を図ることができた。SC、SSWや関係機関との連携を密にして取り組んだことで、不登校生徒が昨年度より減少した。 						